



渡辺 大直

県立但馬牧場公園(新温泉町丹土)で4月21日の未明、子牛が生まれた。出産予定日は16日だったが、お母さんにその気配は全くなかった。

18日から19日にかけて尻尾の付け根がくぼみ、おっぱいが少し張り始めるといった出産の前兆が見え始めた。

20日夜には部屋の中を落ち着きなく、うろつろ歩き回るようになった。

いよいよ生まれそつだ。担当の田中さんは新しい敷きわらを入れて、その時を待った。

日付が変わった午前0時35分、待ちに待った子牛が生まれた。前兆が始まってから出

産までの時間は長かったが安産で、牧場公園で今年3頭目となる子牛は女の子だった。

同0時50分、子牛は自ら立ち上がることに成功。そして同1時半、自分でお母さんの乳房を見つけて母乳を飲んだ。

この母牛は今までに4頭の子牛を産んだベテランで、嫌がることなく子牛に乳を飲ませた。

同2時45分、後産^{あと産}が出て、お産は無事に終了した。

子牛は今のところ順調に育っている。お母さんが餌を食べている隙に触ろうとする

のだらう。現在、但馬牛に限らず黒毛和牛が高値で取引されているとある。



母牛に寄り添う子牛。命はつながっていく

新たないのちの希望

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

外国からの旅行者の増加や輸出の拡大によって新たな需要が増えているにもかかわらず、全国の家畜市場に出荷される子牛の頭数は、ここ3年で約1割減っている。

このたび生まれた子牛の母方のおじいさん福芳土井は先代のエース種雄牛で、但馬牛の体格を大きくした実績がある。お父さんの丸福土井は、ちよっと体格は小さいが、おいしい霜降りを入れる能力にかけては定評がある。お母さんのゆき6は、子牛を毎年産んでいて子育てが上手だ。

少し気が早いけど、そんな優秀なおじいさんやお父さん、お母さんの遺伝子を受け継いで、良い但馬牛をたくさん産む母牛になってほしいと願う。